

団体名		事業名	交付予定額	融資予定額	金融機関	地域課題	事業概要	新規性・モデル性・公益性
1	新潟県 妙高市	妙高市矢代における古民家文化複合施設を中心とした地域活性化事業	16,650  （国費 11,100 地方費 5,550）	16,650	第四北越銀行	・2014年から2023年現在まで人口が4,700人以上減少、また少子高齢化により、高齢者の割合が全体の37%を超えている。 ・人口減少に伴い、空き家問題が深刻化。 ・妙高市の重要産業の1つは観光産業だが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光入込客数が大幅に減少、観光を通じた地域経済の活性化策や、地域の観光再生も喫緊の課題。	築120年の古民家を一棟貸しの宿泊施設、シェアスペースへとリノベーションし、地域の魅力を体感・再発見できる文化複合施設にする。	本事業では、来訪者と地域住民との関わりを重要視しており、交流の場を提供することで、地域住民は外部の交流を通じて新たな視点で地域を再発見でき、来訪者は交流を通じて地域に対する愛着を深めることができる。また、将来的に、交流・関係人口増加による地域の消費拡大だけでなく、起業支援など地域での生産活動も促進し、地域経済の活性化に寄与することを目指しており、このような取り組みは、妙高を含め他の地域再生のモデルケースとなる。
2	山梨県 大月市	新たな大月市の観光拠点整備～大黒屋のリニューアルオープン～事業	6,664  （国費 3,332 地方費 3,332）	6,666	山梨中央銀行	・猿橋周辺にあった食事処やお土産屋など観光客の消費を喚起できる場所はコロナ禍をきっかけに続々と閉店し賑わいが失われている。 ・大月は観光客が滞在できる場所や要素が少なく、「通過点」となっている。	名勝猿橋にあり、現在閉店をしている飲食店「大黒屋」を改修し、土産物店と飲食店の開店を中心に観光協会の事務所を移設することでリニューアルオープンを図る。大月市最大の観光資源に観光拠点となる施設が設置されることにより、地域事業者の商品の販売および地域人材の雇用により名勝猿橋の賑わいを創出する。	当事業によって「忠治そば」が新たな名物となり既存の資源である猿橋を支える観光資源となることや、大黒屋がただの飲食店ではなく地域資源の販売を同時に行えるようになることに加えて、観光協会が運営することで観光案内等も行うことができ、観光客の多様なニーズを満たせる複合施設が誕生することは、同様の地域課題を抱える地域にとっての模範になる。
3	福岡県 柳川市	福岡県特産あまおうをPR、観光地でカフェ併設いちご直営店整備事業	18,000  （国費 12,000 地方費 6,000）	18,000	日本政策金融公庫 大牟田柳川信用金庫	・人口減少により一部過疎地域となり、観光地や商店街では空き店舗や空き地が目立つようになった。 ・柳川市の観光客は、年間約120万人で通過型観光が大半を占めている。観光コースは、うなぎのセイロ蒸しや川下りが大多数を占め、周遊性が見られないことが課題。 ・柳川市は県内有数の観光地であるがコロナ禍による影響は著しく、観光回復においては、地域資源を見直し新たな価値の創出が急務。	県内有数の観光地である柳川市において、福岡県特産あまおうをPRするカフェ併設の直営店を整備することによって、新たな観光スポットを創出。商品開発から生産加工販売までの各工程において障がい者就労支援に関わる事業を展開。	特産品として海苔が有名な柳川市において、いちごに特化した商品や店舗は存在しないため、その地域における新規性がある。将来的には同市内での店舗展開により、空き家、空き地の課題解決にも期待ができる。そして、農業+観光+商業+福祉といった地域資源が融合したサステナビリティな事業であり、同様の課題を抱える自治体にもモデルとして展開が期待できる。

41,314 41,316